2022 コアジサシ繁殖保護活動　レポート2

2022年9月29日　大隅地区　**前田和浩**

抱卵調査結果をみて追加の防獣ネット設置

5月28日8時から第1回の抱卵数調査を行い、現状ネット内にコアジサシ72巣をカウントしました。このとき昨年中洲があったところに抱卵が集中していることが確認されたので、少なくともこの集団営巣地を守る目的で田原川上流に向かって東の水際から西の水際まで防獣ネットを追加して設置しました。

6月2日、防獣ネット内の異変に気付きすぐに第2回抱卵調査を行いました。抱卵巣はわずか4日間で72から18に激減していたのです。営巣地に残された足跡から、干潮時、川側にできる砂地から侵入した獣に卵が捕食されたのは明らかでした。調査後すぐに、捕食被害を防ぐため、営巣地周囲をネットで切れ目なく、ぐるりと取り囲むサークル形にネットを再度追加しました。

そして、試験的に犬猫侵入防止用の忌避剤をネット外側全周に何回か散布してみました。

写真提供　加納雅裕・志布志市文化会館館長　2022/5/29撮影

この2つの対策が効果を発揮して、そのあとネットサークル内での獣による被害はほとんど無くなりました。

コアジサシ営巣　卵３個　L=約2.5cm

ベニアジサシ営巣　卵１個　L=約5cm

コアジサシ　雛7/2

コアジサシに続きベニアジサシの抱卵と孵化

5月中旬にかけてコアジサシに続き、ベニアジサシも数を増して、5月末にはコアジサシ250＋、ベニアジサシ200＋、またクロハラアジサシ、ハジロクロハラアジサシ、アジサシ、エリグロアジサシなどが飛来しました。このうち、ベニアジサシは、コアジサシから遅れること２週間余りたってやっと抱卵を始めました。そして、砂地の中でも軽石の集まった場所に凹みをつくり、短い小枝を敷くなどして営巣・抱卵していました。

1巣当たりの抱卵数はコアジサシが２～３個まれに４個に対し、ベニアジサシは大方1個で2個はまれでした。

コアジサシはおおよそ21日ほどで孵化するようですが、ベニアジサシは4週間近くかかっているようでした。沖縄の屋我地鳥類保護区の観察では21日から26日で孵化しているそうです。

コアジサシの雛は、砂地にカモフラージュするような羽毛で覆われています。孵化直後は約3cmと小さいのですが、親鳥が給餌を頻繁に行うことで成長のスピードは速いように思われました。4日もたつと巣の近くを歩き回るようになり、３週間程でサークルの外に飛び出して、なぎさ近くで親鳥から餌をもらう様子を見ることができました。今年の巣立ち雛は60羽超、去年の羽数と同じくらいだったと思われます。

一方ベニアジサシの雛はやや黒っぽい茶色か灰色の羽毛で、孵化直後は６cmほどです。コアジサシにくらべると親鳥の給餌の回数は少なく、餌の小魚も雛の口には大きすぎるものを与えているのか、食べきれていないようすの雛も見受けられました。走り回れるようになった雛は７、８羽しか確認できず、飛べるまでに成長した個体を今年は見ることはできませんでした。

ベニアジサシ　雛7/29

これは、天敵ハヤブサの襲来に対する親鳥たちの対応と関係していたように思われます。

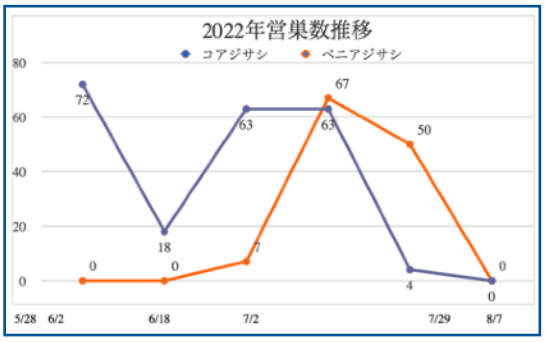
営巣数推移からみた繁殖成功の要因

私たちは、横瀬海岸におけるコアジサシとベニアジサシの営巣数と卵・雛数の調査を5回行いました。その期間の営巣数の推移と観察から繁殖の成功、不成功の要因をまとめてみました。

① 抱卵開始時期

コアジサシは、5月22日頃には抱卵を始め、28日には72巣に達しています。その後7月2日に63巣、卵130個、雛14羽を確認しました。

ベニアジサシは、約1ヶ月遅れの6月18日頃から抱卵が始まり、7月2日に67巣、7月29日に50巣、卵41個、雛16羽（死亡も含む）を確認しました。ベニアジサシの抱卵のピークが4週間ほど遅れていました。



② 営巣地内の親鳥の羽数

この4週間の遅れは営巣地で、抱卵、給餌する親鳥の羽数に大きく影響しました。単純に営巣数の2倍としたとき、7月2日時点では2種合わせて260羽だったのに、7月29日にはベニアジサシ100羽、コアジサシ8羽となっています。トビやハヤブサなどの飛来を親鳥みんなで迎撃することが出来ない状態だったと思われます。

③ 天敵に対する反応

天敵、特にハヤブサに対して、コアジサシは果敢にモビングをしかけて、追い払らった後はすぐに巣に帰って卵や雛を抱き、給餌をする様子を観察できました。しかし、ベニアジサシは、コアジサシの親鳥が減った状況で、ハヤブサが営巣地に近づくと一斉に巣から飛び立ち100mを超える上空で2時間くらい旋回するのみで、その間卵や雛は夏の直射日光にさらされ、餌をもらえず、生存できなかったようです。

写真　立元淳子さん2022/7/27撮影

コアジサシ　サークルの外に出た雛（幼鳥）のようす

コアジサシの雛は、孵化後おおよそ３週間で、サークルの外に飛んで出ます。

しかし、すぐに、浜に出ていくのではなく、浜の奥に打ち上げられたごみの間に身を隠して、親から餌をもらって、飛ぶための羽や筋肉と、体力をつける時期を過ごすのです。それから、浜に出てきて、なんとか親鳥たちに交じって飛ぶようになります。でも、まだまだ、自分で餌を獲ることはできません。親からの給餌を待っています。そして、親と同じように飛べるようになると渚に下れるようになるようです。

このころから、ダイビングして餌を獲る練習を始めるようすが見られます。雛から幼鳥になってちょっとたくましい感じです。

小学校見学会について

７月７日、９日、11日、最寄りの大崎町立大丸小学校と、志布志市立通山小学校の3，4年生のみなさんに営巣地を見学に来てもらいました。

県立博物館からコアジサシとハヤブサなど天敵の剥製を、大隅広域公園からはフィールドスコープをお借りして、説明会を校内でおこなったあと、横瀬海岸の営巣地のようすを観察するという企画で、初めて見るコアジサシやベニアジサシに興味津々。身近な海岸で希少種が繁殖していることを知って、子供らしいいろいろな感想をよせてくれました。各校の皆様、説明にご協力いただいた方々にお礼申し上げます。はじめて、実施しましたが、来年も是非計画したいと思います。

通山小学校にて丸山さん説明　　前田撮影22/7/９

大丸小学校見学状況　写真　秦校長先生　22/7/11

おわりに

８月７日、コアジサシ、ベニアジサシの飛去を確認し、８月21日に保護ネット撤去を完了しました。雨にもかかわらず皆さんにご協力いただきありがとうございました。

来年からは営巣地のごみ清掃活動も行いたいという反省が出たことを記録しておきます。

参加者（敬称略）樋脇夫妻、高崎、飯山、加藤、落、安藤、立元、上國料、渡口、丸山、吉田、鏡原
写真提供　渡口旦2022/8/21撮影

4か月あまりにわたる見守りは終わり、毎日来てくれていた、吉田さん、丸山さん、鏡原さんは真っ黒に日焼けして、すっかりコアジサシ・ロスになってしまったようです。

営巣地を流すような台風や大雨などもなく、事故もなく幸運でした。

みんなで、来年もまた、この浜にコアジサシやベニアジサシが来てくれることを祈っています。

最後に営巣地をお貸しいただいた川越産業様をはじめ、大崎町役場様、鹿児島県自然保護課様、県立博物館様、大隅広域公園様、大丸小学校様、通山小学校様、日本野鳥の会かごしま県支部のみなさま、ほかご協力いただいた皆様に衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（以上　　報告：前田和浩）